

【様式 2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立有田工業高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和 6 年 2 月 2 7 日 (火)

(2) 資料 (評価の参考とした資料)

- ・学校評価結果
- ・生徒、教職員、保護者対象のアンケート結果

(3) 評価者氏名 (学校ホームページへの公開は控える。)

学校運営協議会委員 (校長を含めて 13 名)

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

・先生方の業務改善で、教員不足であったり、一人の先生に負担がかかったりといったことが話題になっているが、そのような評価、例えば他の学校との比較した場合にどのようになっているのかが気になる。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

・先生方の業務改善のところで、中間評価では「業務の効率化は調整中である。」とあり、最終評価では「各科・分掌の業務効率化は継続中である。」とあるが、わかりにくい。

③改善方策の適切さ

・先生方の業務改善のところで、数値的なデータが無いとのことだが、評価するのであれば、ある程度目標数値があって、それに対して何%ということがないと、なかなか評価し難いのではないか。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

・SAGA コラボレーション・スクールの成果指標で、「本校を中学生にお勧めできる」と答えた生徒や教職員の割合がとても高いという印象である。特に 93%もの教職員が「お勧めできる」と考えているのはうらやましい限りであり、素晴らしい。

・有田工業生には様々な場面で協力をしてもらった。大人にとっては、高校生の感性で様々な視点から展示をしたり、提案をしたりしてくれるため、そのような点で

も SAGA コラボレーション・スクールの内容にふさわしい活動がたくさんできているのではないか。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

・学校評価に学校魅力評価システムアンケートの結果を用いているが、このアンケート項目自体がすごく難しいのではないか。幅広くとらえていくと、高校生がわからないようなところでも、役に立っていることはたくさんあるのではないか。そこまでとらえれば、数値はもっと良くなると思う。例えば、地域で働くことも地域に役立つが、外に出て地域をアピールすることも地域に役立っている。

③改善方策の適切さ

・SAGA コラボレーション・スクールの具体的取り組みで、課題研究によるほかの学校とのコラボレーションや地域連携などはすごくいいなと思うが、課題研究についての生徒が抱く思いは強いと思うので、ミスマッチにならないように慎重に進めてもらいたい。

・SAGA コラボレーション・スクールの具体的取り組みのうちの地域との連携で、外部からの依頼等があった時に「ただのバイトでいいのではないか」というようなものも結構あるため、依頼の取捨選択は大切である。

・今後も生徒の活動や、卒業制作展のような外に向けた展示会など意欲的に行ってもらいたいと思う一方、教員の負担が増えていくことも気になる。特別人員のような、人員の増員を求めたいが、そのようなことは難しいのか。

3 その他学校に対する意見や提言

・生徒の就職面接練習に参加したが、その時の印象としてこのまま社会に行っても大丈夫かなという不安があった。もう少し親や学校の先生以外の社会人と関わる機会が高校生にあった方がよいのではないか。現在デザイン科が課題研究で素晴らしいことをやっているのに、他の科とコラボレーションすることで面白い商品だったり企画だったりというものが生まれていくのではないか。この取組を町の人たちなど社会人と一緒にやるとよいのではないか。

・生徒が自分たちで作った作品に値段をつけて、それが売れるのか売れないのか、生徒自らが考えている評価と周囲の皆さんが持っている評価とは違ったら売れないという経験もよいのではないか。例えば自分が設定した値段ですぐに売れたのならば、創作意欲がものすごく上がるのではないか。